
過去は振り返らない ~ not fly butterfly ~

黒陽嘉穂

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

過去は振り返らない *↳ not fly butterfly* }

【Nコード】

N0675G

【作者名】

黒陽嘉穂

【あらすじ】

フェリシア暦四六〇五年、世界は大きなどす黒い渦に飲み込まれる。種族の壁、偏見、大人たちの怒りに満ちた言動……。最後まで未来を見つめ続けた、そんな彼等の物語。

序章（前書き）

この作品を読まれるに当たって

本編には、残酷及びグロテスクな表現が多用されます。
戦闘シーンなども描写が激しいので苦手な方は「戻る」をクリック
して下さい。

また、激しく他人を蔑む言動も多用されますので、こちらも苦手な
方は「戻る」をクリックして下さい。

序章

フェリシア暦四六〇五年、世界は混沌の中にあった。

種族たちの争いはという小さな火種は、やがて大きな戦争という炎と姿を変えた。

森は枯れ、川は淀み、海は屑の山と化していた。

一方、そんな世界の変動に便乗し、遙か昔に封印された『魔人ド
ウーラ』の封印を解く者が居た。

こうして、悪魔が甦ったこの地 サリディアは争いに塗れた^{まみ}。

そんな時だった。

二つの希望の光が見えたのは。

一つは、神々しいほどの紫の光を放っていた。

一つは、恐ろしいほどの深く強大な蒼の光を放っていた。

世界の平穏を取り戻すべく、種族の境を越えた少年少女たちの旅
が今、始まる。

第一章・過去

「 母さんッ！ 母さんッ！」

小さな子ども、声が聞こえた。

まだ幼い娘。蒼い髪を振り乱し、美しい薔薇色の唇から悲痛な叫びを漏らし続けた。

「イヤっ、イヤアアア ツー！」

紫の瞳から雫が零れる。

開かれたその口からは、止まることなく母を想う娘の心が流れ出していた。

「早く逃げなさい！ 早くッ！ 貴女だけは生き延びてッ！」

娘の前には、大きな鉄製の柵。

そしてそのまた向こうには、大きな木の十字架に縛り付けられた、女。

女の耳は、ヒトのものとは異なり横に大きく飛び出していた。

縛り付けられた足首の下、無数の薪が置かれていた。

やって来た青年が、躊躇することなく外側だけ錆びた大きな缶の蓋を開け、中の液体をぶちまける。

女は終焉を感じ、愛する娘を呼び続けた。

「アイラ！ 行って！ 母さんのお願いよ！」

その元は美しかったであろう顔は、傷跡だらけで痛々しい。

右頬からは赤い液体が首まで伝っていた。

「 ツー！ 母さんっ……」

娘は何も言わず、腕を振って駆け出した。

ざわめく民衆たちの間をすり抜け、ただひたすら走った。

「炎を上げるーっ！」

大きな、低い男の声が聞こえた。
娘の紫の瞳が、大きく見開かれた。もう、その瞳に生は宿っていない。

「 母さん」

小さく呟き、娘は後ろを見ずに歩き出した。

背中が、熱かった。

それは娘の哀しみと憤りだけの影響では……なかった。
娘の背後では紅蓮の炎が赤々と燃えていたのだから。

一人の美しい女を包み込んで

「 ツー!!」

朝日の光が差し込むベッドの枕元。一つの雫を頬に伝わせる女が居た。

彼女の紫の瞳が見つめていたのは、普段と何ら変わらない木製の天井、その木目。

濃い茶色の線を目で追い、女は全てのことを察したように布団から上半身だけをゆっくりと起こした。

（また、あの夢）

一体これまで何度、あの夢によって睡眠を脅かされたことか。

いつまで経つたとしても忘れることのできない、忘れようのない二十年前の出来事。

赤々と燃える紅蓮の炎に身を焼かれた母親は、魔女と称されて十字架に掲げられた。

世界が魔女を毛嫌いし、魔女狩りを実行している時代である。

誰かを摘発しなければ自分がされる。そんな人間の疑いと憎悪の瞳で睨まれた魔女は、小さな娘を独り残してこの世を去った。いくら魔女だとしても、炎で身を焼かれて生き残れるはずはないというのに……。

「愚かな人間族」

誰に言うでもなく、女は小さく呟きベッドから足を出し床に着けた。

着ていた服をサラリと脱ぎ捨て、近くの箆筥タンヌに仕舞ってある黒の服を手取る。それは漆黒のワンピースで、茶色のベルトには無数のナイフがあった。

肩の上には同色の紫の縁取りが付いたケープを羽織り青緑色の飾りで留める。

茶色の皮製ブーツを履いて紐をキツチリと結び、最後に矢筒と弓を方に掛けた。

「……行って来ます」

誰もいない部屋の中、凜とした声が響いていた。

ケープについている頭巾を頭に被り、女は扉を開き家を出た。

朝日が昇った、まだ小鳥が鳴き出したばかりの時間。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0675g/>

過去は振り返らない ~ not fly butterfly ~

2010年10月21日23時51分発行